

過去の好パフォーマンス資産から考える

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

2020年の金融市場では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、3月に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、主要資産が大きく売り込まれました。その後、主要先進国・地域が強力な財政・金融政策を発表したことなどから、投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、3月下旬には、各資産が上昇に転じる展開となりました。株式は、米大統領選挙の通過による先行き不透明感の後退に加え、新型コロナウイルス向けワクチンの接種開始を受けた経済回復期待などから、年末にかけて米主要3指数が史上最高値を更新するなど、上昇基調を強めました。特に新興国株式は、投資家のリスク回避姿勢が和らぐなか米ドル安が進んだ影響などもあり、主要資産のなかで大きく上昇しました。一方、REITについては、3月末以降上昇基調となったものの、世界各地でロックダウンが行なわれ、人の往来が制限されたことによる保有物件からの収益減少懸念などが重石となり、3月の大幅下落分を取り戻すことが出来ませんでした。

過去の主要資産の年間パフォーマンスの推移を振り返ると、パフォーマンスの良い資産は一定ではなく、また、各資産の騰落には法則性もみられません。そのため、中長期において運用成果を向上させるためには、好パフォーマンスをあげる資産を当てることに重きを置くのではなく、個人のリスク許容度に合わせて、国内外の幅広い資産に分散投資を行なうことが重要といえそうです。

主要資産の年間パフォーマンス(2013年~2020年:円換算ベース)

| 順位 | 2013年 | | 2014年 | | 2015年 | | 2016年 | |
|----|-----------|-------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|--------|
| 1 | 先進国株式 | 54.6% | グローバルREIT | 40.1% | 日本株式 | 12.1% | 日本REIT | 9.9% |
| 2 | 日本株式 | 54.4% | 日本REIT | 29.7% | 新興国債券 | 2.1% | 新興国株式 | 8.8% |
| 3 | 日本REIT | 41.1% | 新興国債券 | 20.6% | グローバルREIT | 1.5% | 新興国債券 | 6.8% |
| 4 | グローバルREIT | 25.2% | 先進国株式 | 19.9% | 日本債券 | 1.3% | 先進国株式 | 5.4% |
| 5 | 新興国株式 | 18.6% | 先進国債券 | 13.1% | 先進国株式 | -0.0% | グローバルREIT | 4.1% |
| 6 | 先進国債券 | 16.5% | 新興国株式 | 11.6% | 先進国債券 | -3.3% | 日本債券 | 3.7% |
| 7 | 新興国債券 | 11.3% | 日本株式 | 10.3% | 日本REIT | -4.8% | 日本株式 | 0.3% |
| 8 | 日本債券 | 2.2% | 日本債券 | 4.9% | 新興国株式 | -14.3% | 先進国債券 | -1.0% |
| 順位 | 2017年 | | 2018年 | | 2019年 | | 2020年 | |
| 1 | 新興国株式 | 32.7% | 日本REIT | 11.1% | 先進国株式 | 27.1% | 新興国株式 | 12.8% |
| 2 | 日本株式 | 22.2% | 日本債券 | 1.1% | 日本REIT | 25.6% | 先進国株式 | 10.7% |
| 3 | 先進国株式 | 18.5% | 先進国債券 | -3.5% | グローバルREIT | 23.5% | 日本株式 | 7.4% |
| 4 | グローバルREIT | 4.4% | グローバルREIT | -6.8% | 日本株式 | 18.1% | 先進国債券 | 4.7% |
| 5 | 新興国債券 | 4.3% | 新興国債券 | -7.8% | 新興国株式 | 17.7% | 新興国債券 | 1.8% |
| 6 | 先進国債券 | 3.5% | 先進国株式 | -10.6% | 新興国債券 | 11.5% | 日本債券 | -1.1% |
| 7 | 日本債券 | 0.2% | 日本株式 | -16.0% | 先進国債券 | 4.8% | グローバルREIT | -12.2% |
| 8 | 日本REIT | -6.8% | 新興国株式 | -16.5% | 日本債券 | 2.3% | 日本REIT | -13.4% |

グローバルREIT: S&P先進国REIT指数(米ドルベース)、新興国株式: MSCIエマージング・マーケット・インデックス(米ドルベース)、先進国株式: MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)、新興国債券: JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(米ドルベース)、先進国債券: FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)、日本株式: TOPIX(東証株価指数)、日本REIT: 東証REIT指数、日本債券: FTSE世界国債インデックス(日本)
なお、各株式とREITは配当込指数を使用しており、また、各指数(日本株式、日本REITおよび日本債券を除く)は各年末の為替を基に日興アセットマネジメントが円換算しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。